

Form A 書類 A

申請書及び申請書・現地審査チェックリスト

コラム 1	コラム 2
コミュニティ記載欄	審査員記載欄
セクション A コミュニティの概要	
<p>A.1 簡潔にコミュニティ及びその歴史的発展について記載すること</p> <p>鹿児島市は、日本の主要 4 島のうちの一つである九州の南端、鹿児島県のほぼ中央に位置し、市域面積 547.07 km²、人口 605,610 人、世帯数 274,131 世帯のまちです。</p> <p>1889 年に市制が施行され、2014 年、市制 125 周年を迎えました。政治、経済、教育、文化等の各面にわたり、高次な都市機能が集積した南九州の中核都市として発展を続けています。</p> <p>19 世紀中頃には、ヨーロッパの科学技術をいち早く取り入れ、わが国における近代工業化の発祥の地となり、「明治日本の産業革命遺産」として、2015 年 7 月に世界文化遺産に登録されました。</p> <p>活発な活動を続ける火山島「桜島」を市街地から錦江湾をへだてわず約 4 km の対岸に望み、(桜島や錦江湾は、2013 年に大自然の魅力を体感できる場として「日本ジオパーク」に認定) 豊かな自然に恵まれた自然景観と、近代日本の黎明を彩る歴史や文化をもつことから、国内外の多くの観光者を魅了している国際観光都市です。</p> <p>(別添説明書 P1～P4 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>A.2 安全に関する全体的な方策、抱負・目標、コミュニティの取り組みについて記載すること</p> <p>鹿児島市は、本市が将来に向けて持続可能な発展を遂げていくための市政の最上位計画である「第五次鹿児島市総合計画」(計画期間 10 年：2012～2021 年度)において、「健やかに暮らせる安全で安心なまち」を基本目標の一つに位置付け、さまざまな施策を体系的に進めています。</p> <p>セーフコミュニティの取り組みは、この計画の先導的、重点的なプロジェクトの一つである「生涯安心安全プロジェクト」に位置付けられています。</p> <p>また、2005 年には、犯罪、事故、自然災害を未然に防止し、市と市民、事業者等の連携、協働により安心、安全な地域社</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>会を実現するため「鹿児島市安心安全まちづくり条例」を制定しました。</p> <p>鹿児島市は、これらの計画や条例に基づいた取り組みはもとより、セーフコミュニティに取り組むことにより、これまで以上に事故やけがの減少を図り、市民が生涯にわたって安心して暮らせる安全なまちづくりを目指します。</p> <p>(別添説明書 P6 参照)</p>	
<p>A.3 首長（および同等の立場）及び実行委員会はどのようにかかわっているか？だれが、分野横断的なグループをまとめているか。</p> <p>鹿児島市長は、セーフコミュニティ活動のかじ取り役である鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会の会長として、分野を越えた協働・連携によるセーフコミュニティ活動を包括的に管理、推進しています。</p> <p>鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会では、傷害に関するデータ収集等を行う外傷サーベイランス委員会、重点的な予防活動に取り組む分野別対策委員会等の体制を整備し、根拠に基づいた分野横断的な傷害予防を取りまとめ、管理しています。</p> <p>また、市行政における各分野の事業の連携・調整を図るため、市役所内に「検討委員会」、「作業部会」を設置しています。</p> <p>なお、セーフコミュニティ推進のための予算編成などについては、市議会に説明し、理解を得た上で、進めています。</p> <p>(別添説明書 P24～29 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p>首長は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>実行委員会は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>どこが分野横断的なグループをまとめているか？</p> <p>.....</p>
<p>A.4 コミュニティにおけるリスクの概観を示す</p> <p>セーフコミュニティ導入時に様々なデータ等による地域診断を行い、その結果、次のリスクが明らかになり、7つの重点課題を設定しました。</p> <p>①交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による死亡のうち約2割が交通事故である。 ・救急搬送者の約4割が交通事故に起因している。 ・年間4,000人以上を超える交通事故死傷者がいる。 <p>②学校の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の事故等が発生した場所は、「学校」が45.3%で最も多く発生している。 ・小学生で約17人に1件、中学生で約12人に1件の割合でけがによる治療を受けている。 	<p>リスクの外観は十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>※小学生：満 7～12 歳 中学生：満 13～15 歳</p> <p>③子どもの安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送者のうち、0～6 歳では、「一般負傷」が約 8 割を占めており、0～17 歳の全搬送者の 3 割を超えている。 ・児童虐待に関する相談は年間 200 件以上あり、児童虐待の実態が依然としてある。 <p>④高齢者の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による死亡のうち高齢者（65 歳以上）が約 7 割を占めている。 ・救急搬送者のうち、高齢者が約 4 割を占めている。 ・高齢者の虐待対応件数は、増加傾向にある。 (2007 年度：35 件、2010 年度：68 件、2013 年度：79 件) <p>⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVに関する相談件数は、増加傾向にあり、DV被害の実態が依然としてある。 (2010 年度：394 件、2012 年度：554 件、2014 年度：777 件) <p>⑥自殺予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10～64 歳の年齢層別死亡順位では、自殺が上位を占めている。 ・年間に約 100 人が自殺で死亡している。 (2012 年：10 万人あたり 17.3 人) <p>⑦防災・災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜島は 1914 年の大正噴火から 100 年が経過し、マグマの蓄積状況から同様の噴火がいつ起こってもおかしくない状況にあり、大噴火により甚大な被害が発生する恐れがある。 ・桜島内には外周道路が 1 本しかなく、大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。 (別添説明書 P42 参照) 	
<p>セクション B コミュニティの構造</p>	
<p>B.1. 人口動態構造¹について説明する</p> <p>鹿児島市の人口は、2004 年、隣接する 5 町との合併で約 5 万人増加し、以後、およそ 60 万人で推移しています。</p> <p>鹿児島市の中心部に南九州一の繁華街があり、その周辺は海拔 100～300m ほどの丘陵地で住宅地が広がっています。また、市街地は内湾に面し、その対岸 4 km に位置する周囲 55 km の活火山「桜島」には約 4,500 人が火山と共存しています。</p> <p>日本各地で人口減少が進む中、鹿児島市は現在のところ横</p>	<p>人口動態構造とリスクについて十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

¹ 英語「demographics」には、人種、年齢、収入、教育、就業状況、居住地域などが含まれる

<p>ばいで推移しており、15歳未満の年少人口や15歳から64歳までの生産年齢人口がともに減少する中、65歳以上の老年人口が増加傾向にあります。</p> <p>○人口構成比（2010年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15歳未満の年少人口 14.0% ・15歳から64歳までの生産年齢人口 64.7% ・65歳以上の老年人口 21.2% <p>○産業別就業人口（2010年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1次産業（農業、林業など） 1.3% ・第2次産業（建設業、製造業など） 14.0% ・第3次産業（卸売業・小売業、医療・福祉など） 76.8% <p>○教育施設や福祉・医療関係施設の状況（2015年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育施設：幼稚園49園、小学校81校、中学校45校 など ・福祉施設：保育所110園、介護老人福祉施設38施設 など ・医療機関：病院98施設 など <p>（別添説明書 P2～P5 参照）</p>	
<p>B.2. 現在の安全向上・傷害予防（の取り組み）および今後の計画について説明する</p> <p>鹿児島市行政は、これまでも総合計画をはじめ、各セクションで定める計画の中で、両性、全年齢を対象に、安心、安全、外傷予防に向けた取り組みを行ってきました。</p> <p>取り組みにあたっては、県警察や市消防局、市保健所などの専門的なセクションからの支援、協力のもと、「安心安全まちづくり条例」に基づき、市と市民、事業者等が協働して安心、安全なまちづくりを推進しています。</p> <p>これらに加え、セーフコミュニティの手法による予防活動を進め、2013年1月に鹿児島市長がセーフコミュニティの取組宣言を行い、これまで以上に地域の多様な人材や資源の活用・活性化を図り、鹿児島市ならではの地域の特性を生かしたまちづくりを積極的に推進しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.3 コミュニティの地方政治家による継続的な傷害予防への支援について記載する。また、プログラムのどのような部分がより大きな単位の地方政治によって担当・支援されているか</p> <p>行政の長であるとともに政治家でもある鹿児島市長が鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会の会長となり、分野を越えた協働・連携によるセーフコミュニティ活動を包括的に管理、推進しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>より大きな単位の地方政治の協力としては、例えば、県警察がセーフコミュニティの取り組みを総合的かつ効果的に支援するため、「セーフコミュニティ支援推進委員会」を設置し、委員就任や統計データ等の情報提供などを行っていただいています。</p> <p>また、セーフコミュニティの推進には、鹿児島県や鹿児島地方気象台、鹿児島労働基準監督署、自衛隊鹿児島地方協力本部などが各分野の対策委員会等の委員として参画し、共に取り組みを進めています。</p>	
<p>B.4 すでに策定された安全向上・傷害予防の取り組みを推進するための方策（戦略）について説明する</p> <p>鹿児島市行政では、前述の「総合計画」をベースに、さまざまな計画に基づき安心安全なまちづくりのための取り組みを進めています。</p> <p>（例）</p> <p>《交通安全》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第9次鹿児島市交通安全計画（2011~2015年度） <p>《子ども》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市教育振興基本計画（2011~2021年度） ・鹿児島市子ども・子育て支援事業計画（2015~2019年度） <p>《高齢者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6期鹿児島市高齢者保健福祉・介護保健事業計画（2015~2017年度） <p>《DV（ドメスティック・バイオレンス）》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次鹿児島市男女共同参画計画（2012~2021年度） <p>《健康づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かごしま市民すこやかプラン（2013~2022年度） <p>《防災・災害》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画 など <p>これに加えて、地域においても、町内会（地域住民自治組織）や自主防災組織などの市民による地域組織が防犯パトロールや防災訓練といった取り組みを積極的に展開しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.5 だれ（どこ）が安全向上・傷害予防プログラムの責任者か、そして地域の政治及び行政組織においてどこに位置しているか。</p> <p>鹿児島市長 森 博幸（鹿児島市役所）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B.6 安全向上・傷害予防プログラムをリードしているユニット（部署等）はどこか</p> <p>鹿児島市役所 市民局 危機管理部 安心安全課</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.7 セーフコミュニティは、継続的なプログラムかプロジェクトか？</p> <p>セーフコミュニティは、第五次鹿児島市総合計画の計画期間の10年においては、その認証取得を地域の安全向上の指標として位置付けており、特に先導的かつ重点的な取り組みの1つとして位置付けられたプロジェクトです。</p> <p>しかし、認証取得がゴールではなく、認証取得後も継続してSPDCAサイクルに基づき、取り組みを評価しながら長期的に活動を展開し、住民が生涯にわたって安心安全に暮らせるまちづくりのプログラムとしています。</p> <p>（別添説明書 P138 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.8 全コミュニティをカバーしている地方政治家によって具体的な目標は設定されているか？それは、何か？</p> <p>市長の指揮のもと策定された第五次鹿児島市総合計画において、「健やかに暮らせる安全で安心なまち」などの全市的な安全な取り組みの目標が定められており、さらにセーフコミュニティでは、鹿児島市が重点的に進める7分野において、「高齢者の交通事故減少」や「市立小中学校の校内等でのけがの減少」、「中高年（50～69歳）の自殺者数の減少」など具体的な目標を定めています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.9 その目標を導入したのはだれか？</p> <p>鹿児島市長 森 博幸（鹿児島市役所）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.10 どのようにそのSC目標は評価され、だれにその結果が報告されるか？</p> <p>重点分野に関しては、分野別対策委員会で取り組みごとに設定した成果指標に基づき、それぞれの対策委員会で短期（知識・認識）、中期（態度・行動）、長期（状況）へのインパクトを評価します。また、外傷サーベイランス委員会において全分野の評価を統計データ等の分析をもとに行います。</p> <p>これらの評価結果は、鹿児島市セーフコミュニティ推進協議会に報告され、そこで内部評価を行うとともに、ホームペ</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>ージ等を通して市民等へお知らせすることとしています。</p> <p>さらに、すべての結果を年間レポートにまとめ、日本セーフコミュニティ推進機構に提出することで、外部評価を行います。</p>	
<p>B11. 安全向上のために経済的な動機は活用されているか？使われている場合は、どのように？</p> <p>継続的に安全向上の取り組みを行うことにより、医療費の削減はもとより、事故やけがの減少により、それぞれの分野でハード面、ソフト面での経費の削減が期待できると考えています。</p> <p>安全向上の取り組みとして、例えば、地域の安全確保のために設置されている「鹿児島市地域安心安全ネットワーク会議（学校や町内会等で構成する地域の安心安全に関する活動に取り組む団体）」（78 団体）に補助金を交付（例：安心安全なまちづくりに関する調査研究補助金など）し、危険箇所の環境診断を行う活動などを支援しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B12.安全向上のための地域レベルでの規制はあるか？ある場合は説明を。</p> <p>鹿児島市では、次のような規制を設けています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力団排除について必要な事項（例：少年を暴力団から守るための通報など）を定めた「鹿児島市暴力団排除条例」 ・男女の人権の尊重や男女間の暴力等を禁止する「男女共同参画条例」 ・生活道路における歩行者や自転車の安全を確保するために 30 km/h の速度規制を行う「ゾーン 30」 ・児童生徒の安全を確保するための「スクールゾーンの設定」、「通学路の指定」 など 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>セクション C 【指標 1】</p>	
<p>C.1 安全向上・傷害予防プログラムの管理・調整・企画を担う分野横断的なグループについて述べよ。</p> <p>鹿児島市では、セーフコミュニティ推進にあたり、次のとおり、分野横断的な組織を設置しています。</p> <p>○セーフコミュニティ推進協議会</p> <p>市PTA連合会、市医師会、鹿児島大学、鹿児島県警察など安心安全なまちづくりに携わる関係団体等の代表者等、29人で構成されています。</p> <p>セーフコミュニティの推進母体として、セーフコミュニテ</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>ィ推進の方針決定などを担っています。</p> <p>○外傷サーベイランス委員会 (P17～18 セクションG【指標5】参照 市保健所や市医師会、市消防局など保健、医療、消防等の関係機関、8人で構成されています。 外傷データ等の収集、分析などを担っています。</p> <p>○分野別対策委員会 「交通安全」、「学校の安全」、「子どもの安全」、「高齢者の安全」、「DV防止」、「自殺予防」、「防災・災害対策」の7つの重点分野ごとに設置しています。 町内会、鹿児島大学、鹿児島地方気象台など各分野に関する住民組織や学識経験者、防災機関などで構成されています。 7分野それぞれの領域の重点課題の解決に向けた取組施策の検討などを担っています。</p> <p>○検討委員会、作業部会（庁内） ・検討委員会は、危機管理部長、市民文化部長などの部・課長級21人で構成されています。 市行政における7つの重点分野の包括的な連携・調整などを担っています。 ・作業部会は、7つの重点分野ごとに設置し、市安心安全課長など課・係長級で構成されています。 各分野における重点課題の解決に向けた取組施策の検討、実施に係る連携・調整などを担っています。 (別添説明書 P24～29 参照)</p>	
<p>C.2 当該地域の政府および保健分野はどのように安全向上・傷害予防において協働しているか述べよ。</p> <p>市保健所や市医師会、市薬剤師会、鹿児島県看護協会、鹿児島県臨床心理士会などの保健分野をはじめ、鹿児島県や鹿児島県警察、市消防局などの行政機関は、各分野の対策委員会委員となり、外傷データの提供やセーフコミュニティ活動への人的・物的な面からの社会資源の提供などの協力、支援を行っています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>C.3 赤十字、退職者組織、スポーツ組織、保護者学校組織などの NGO が安全向上・傷害予防に関わっているか</p> <p>鹿児島市では、次の多様な NGO 団体がセーフコミュニティに加わっています。</p> <p>○セーフコミュニティの推進メンバーである民間団体</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者組織：市老人クラブ連合会、高齢者介護予防協会か ごしま など ・保護者学校組織：市PTA連合会、市あいご会連合会、 母親クラブ連絡協議会 など ・住民組織：皇徳寺台東・高免町町内会、吉野校区安心安全 ネットワーク会議、桜洲校区公民館運営審議会 ・医療・福祉等関係組織：市民生委員児童委員協議会、市社 会福祉協議会、市医師会、鹿児島 県看護協会 など <p>(別添説明書 P25～28 参照)</p>	
<p>C.4 一般市民にハイリスクの環境や状況について知らせる仕 組みがあるか？</p> <p>鹿児島市では、次のような方法で鹿児島市のリスクを示し ています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鹿児島市の全世帯に配布する広報紙「市民のひろば」 ○市ホームページ ○セーフコミュニティの取り組み等を掲載したパンフレット の配布 (配布状況) ・安心安全まちづくり市民大会 (約 1,400 部配布) ・DV防止啓発の街頭キャンペーン (約 1,000 部配布) ・乳幼児検診時や市の施設の窓口等 ○地方紙 (南日本新聞) にセーフコミュニティ関連記事を掲 載 (2014 年 7 月から 2015 年 4 月まで 18 回掲載) <p>(別添説明書 P29～30 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>C.5 どのように取り組み(work)が持続可能な方法で組織化(体 系化)されているかを述べよ</p> <p>鹿児島市におけるセーフコミュニティの推進体制は、各設 置要綱に基づき、推進母体である「鹿児島市セーフコミュニ ティ推進協議会」を中心に、「鹿児島市外傷サーベイランス委 員会」、7つの「分野別対策委員会」や「市役所内組織」を設 置しています。</p> <p>これらの組織が双方向的に協働・連携し、継続的な仕組み であるSPDCAサイクルを構築し、運営しています。</p> <p>また、セーフコミュニティの推進を鹿児島市の長期的な運 営方針を定める総合計画に位置付けています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>セクション D 【指標 2】</p>	

<p>D.1 下記の領域における安全向上・傷害予防に関する継続的な取り組みについて記載すること。また、特定の NGO はじめ各分野がどのようにかかわっているかを述べよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.交通安全 2.家庭の安全および余暇時間の安全 3.子どもの安全 4.高齢者の安全 5.労働安全 6.暴力予防 7.自殺予防 8.防災および災害対策 9.公共（場）の安全 10.病院の安全 11.スポーツの安全 12.水の安全 13.学校の安全（セーフスクール） <p>これらのうち、コミュニティではなく、他の組織や機関によって担われているものはあるか？それについて、コミュニティはどのようにかかわっているか？</p> <p>鹿児島市では、行政はもちろんさまざまな組織・団体が従来から安全向上・傷害予防に関する継続的な取り組み（128 事業）を実施しています。各領域の主な取り組みは次のとおりです。 （別添説明書 P31～38 参照）</p> <p>なお、アルファベットは、別添説明書 P31～38 の内容と一致しています。</p> <p>1.交通安全：12 事業（以下抜粋）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">取り組み</th> <th>実施者・関係者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A：交通安全教室</td> <td>鹿児島県交通安全協会、鹿児島県警察、日本自動車連盟、鹿児島市 等</td> </tr> <tr> <td>B：児童通学保護員の設置</td> <td>鹿児島市、児童通学保護員</td> </tr> </tbody> </table> <p>2.家庭の安全および余暇時間の安全：9 事業（以下抜粋）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">取り組み</th> <th>実施者・関係者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C：公園維持管理、公園遊具等安全点検</td> <td>鹿児島市、指定管理者</td> </tr> <tr> <td>D：安心安全ガイドブック作成</td> <td>鹿児島市</td> </tr> </tbody> </table> <p>3.子どもの安全：7 事業（以下抜粋）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">取り組み</th> <th>実施者・関係者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>E：家庭児童相談員設置</td> <td>鹿児島市</td> </tr> <tr> <td>F：乳幼児健康診査</td> <td>鹿児島市</td> </tr> </tbody> </table>	取り組み	実施者・関係者	A：交通安全教室	鹿児島県交通安全協会、鹿児島県警察、日本自動車連盟、鹿児島市 等	B：児童通学保護員の設置	鹿児島市、児童通学保護員	取り組み	実施者・関係者	C：公園維持管理、公園遊具等安全点検	鹿児島市、指定管理者	D：安心安全ガイドブック作成	鹿児島市	取り組み	実施者・関係者	E：家庭児童相談員設置	鹿児島市	F：乳幼児健康診査	鹿児島市	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
取り組み	実施者・関係者																		
A：交通安全教室	鹿児島県交通安全協会、鹿児島県警察、日本自動車連盟、鹿児島市 等																		
B：児童通学保護員の設置	鹿児島市、児童通学保護員																		
取り組み	実施者・関係者																		
C：公園維持管理、公園遊具等安全点検	鹿児島市、指定管理者																		
D：安心安全ガイドブック作成	鹿児島市																		
取り組み	実施者・関係者																		
E：家庭児童相談員設置	鹿児島市																		
F：乳幼児健康診査	鹿児島市																		

4.高齢者の安全：15 事業（以下抜粋）	
取り組み	実施者・関係者
G：認知症オレンジサポーター養成	鹿児島市、認知症の人と家族の会
H：はつらつ元気づくり教室	鹿児島市、フィットネス系事業所、介護保険事業所 等
5.労働安全：5 事業（以下抜粋）	
取り組み	実施者・関係者
I：雇用・労働相談	鹿児島市、鹿児島労働基準監督署
J：リスクアセスメントの促進	鹿児島労働基準監督署、事業所
6.暴力予防：12 事業（以下抜粋）	
取り組み	実施者・関係者
U：児童虐待防止街頭キャンペーン	鹿児島市、鹿児島市要保護児童対策地域協議会 等
V：パープルリボンキャンペーン	鹿児島市、鹿児島県、県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、民間支援団体 等
W：高齢者虐待防止対策	鹿児島市、地域包括支援センター、鹿児島市高齢者虐待防止ネットワーク協議会
7.自殺予防：4 事業（以下抜粋）	
取り組み	実施者・関係者
X：自殺に関する相談	鹿児島市、鹿児島いのちの電話協会、市医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察 等
Y：自殺対策に関する普及啓発活動	鹿児島市、市医師会、県看護協会、鹿児島産業保健総合支援センター、県精神保健福祉士協会 等
8.防災および災害対策：23 事業（以下抜粋）	
取り組み	実施者・関係者
K：自主防災組織育成	鹿児島市、町内会
L：桜島火山爆発総合防災訓練	鹿児島市、県、市消防団、警察、自衛隊、地域住民、ライフライン事業者 等
9.公共（場）の安全：20 事業（以下抜粋）	
取り組み	実施者・関係者
M：地域安心安全ネットワーク会議活動支援	鹿児島市、地域安心安全ネットワーク会議
N：AEDの設置・周知	鹿児島市、AED設置事業者 等
10.病院の安全：1 事業	

取り組み	実施者・関係者																																																																					
O：市立病院安心安全に関する職員全体研修	鹿児島市立病院																																																																					
11.スポーツの安全：4事業（以下抜粋）																																																																						
取り組み	実施者・関係者																																																																					
P：スポーツ少年団指導者研修会	鹿児島市、スポーツ少年団																																																																					
Q：社会体育指導者の養成	鹿児島市																																																																					
12.水の安全：4事業（以下抜粋）																																																																						
取り組み	実施者・関係者																																																																					
R：桜島フェリーの事故処理に関する訓練	鹿児島市																																																																					
13.学校の安全：12事業（以下抜粋）																																																																						
取り組み	実施者・関係者																																																																					
S：地域ぐるみの学校安全体制整備	鹿児島市教育委員会、スクールガードリーダー、スクールガード																																																																					
T：教育相談（いじめなど）	鹿児島市教育委員会																																																																					
D.2 両性、全年齢層、全環境・状況に関する取り組みを記載すること。「転倒予防」などすべての取り組みについて記載し、どのようにその取り組みが行われているかを述べよ																																																																						
<p>鹿児島市では、上記2.1で示した取り組みをはじめ多くの安全向上・外傷予防の取り組みを展開しており、すべての性別、年齢、環境がカバーされています。その全体像については、次のとおりです。</p>																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>子ども 0～14歳</th> <th>青年 15～24歳</th> <th>成人 25～64歳</th> <th>高齢者 65歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">不慮の要因</td> <td>①交通安全（12事業）</td> <td>12 A、B</td> <td>10 A</td> <td>10 A</td> </tr> <tr> <td>②家庭、余暇時間の安全（9事業）</td> <td>7 C、D</td> <td>7 C、D</td> <td>7 C、D</td> </tr> <tr> <td>③子どもの安全（7事業）</td> <td>7 E、F</td> <td>1 E</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④高齢者の安全（15事業）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15 G、H</td> </tr> <tr> <td>⑤労働安全（5事業）</td> <td></td> <td>5 I、J</td> <td>5 I、J</td> <td>4 I、J</td> </tr> <tr> <td>⑥防災及び災害対策（23事業）</td> <td>23 K、L</td> <td>23 K、L</td> <td>23 K、L</td> <td>23 K、L</td> </tr> <tr> <td>⑦公共（場）の安全（20事業）</td> <td>20 M、N</td> <td>20 M、N</td> <td>19 M、N</td> <td>19 M、N</td> </tr> <tr> <td>⑧病院の安全（1事業）</td> <td>1 O</td> <td>1 O</td> <td>1 O</td> <td>1 O</td> </tr> <tr> <td>⑨スポーツの安全（4事業）</td> <td>2 P</td> <td>2 P、Q</td> <td>1 Q</td> <td>2 Q</td> </tr> <tr> <td>⑩水の安全（4事業）</td> <td>4 R</td> <td>4 R</td> <td>4 R</td> <td>4 R</td> </tr> <tr> <td>⑪学校の安全（12事業）</td> <td>12 S、T</td> <td>12 S、T</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">意図的要因</td> <td>⑫暴力予防（12事業）</td> <td>8 U、V</td> <td>11 U、V</td> <td>5 V</td> <td>6 V、W</td> </tr> <tr> <td>⑬自殺予防（4事業）</td> <td>4 X、Y</td> <td>4 X、Y</td> <td>4 X、Y</td> <td>4 X、Y</td> </tr> </tbody> </table>			子ども 0～14歳	青年 15～24歳	成人 25～64歳	高齢者 65歳以上	不慮の要因	①交通安全（12事業）	12 A、B	10 A	10 A	②家庭、余暇時間の安全（9事業）	7 C、D	7 C、D	7 C、D	③子どもの安全（7事業）	7 E、F	1 E		④高齢者の安全（15事業）				15 G、H	⑤労働安全（5事業）		5 I、J	5 I、J	4 I、J	⑥防災及び災害対策（23事業）	23 K、L	23 K、L	23 K、L	23 K、L	⑦公共（場）の安全（20事業）	20 M、N	20 M、N	19 M、N	19 M、N	⑧病院の安全（1事業）	1 O	1 O	1 O	1 O	⑨スポーツの安全（4事業）	2 P	2 P、Q	1 Q	2 Q	⑩水の安全（4事業）	4 R	4 R	4 R	4 R	⑪学校の安全（12事業）	12 S、T	12 S、T			意図的要因	⑫暴力予防（12事業）	8 U、V	11 U、V	5 V	6 V、W	⑬自殺予防（4事業）	4 X、Y	4 X、Y	4 X、Y	4 X、Y
	子ども 0～14歳	青年 15～24歳	成人 25～64歳	高齢者 65歳以上																																																																		
不慮の要因	①交通安全（12事業）	12 A、B	10 A	10 A																																																																		
	②家庭、余暇時間の安全（9事業）	7 C、D	7 C、D	7 C、D																																																																		
	③子どもの安全（7事業）	7 E、F	1 E																																																																			
	④高齢者の安全（15事業）				15 G、H																																																																	
	⑤労働安全（5事業）		5 I、J	5 I、J	4 I、J																																																																	
	⑥防災及び災害対策（23事業）	23 K、L	23 K、L	23 K、L	23 K、L																																																																	
	⑦公共（場）の安全（20事業）	20 M、N	20 M、N	19 M、N	19 M、N																																																																	
	⑧病院の安全（1事業）	1 O	1 O	1 O	1 O																																																																	
	⑨スポーツの安全（4事業）	2 P	2 P、Q	1 Q	2 Q																																																																	
	⑩水の安全（4事業）	4 R	4 R	4 R	4 R																																																																	
	⑪学校の安全（12事業）	12 S、T	12 S、T																																																																			
	意図的要因	⑫暴力予防（12事業）	8 U、V	11 U、V	5 V	6 V、W																																																																
		⑬自殺予防（4事業）	4 X、Y	4 X、Y	4 X、Y	4 X、Y																																																																
記述は十分か？ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「いいえ」の場合、不十分な点は何か？																																																																						

※上段：対策数、下段：対策の事例 (別添説明書 P31～38 参照)								
セクション E 【指標 3】								
E.1 全てのハイリスクにあるグループを把握し、安全を向上するためにどのような対策を講じたのかを述べよ。ハイリスクにあるグループとは、下記のようなグループがよく挙げられる。 1.先住民 2.低所得層 3.コミュニティ(職場を含む)における少数(マイノリティ)集団 4.犯罪被害や自傷を含む意図的要因による外傷のリスクにある人 5.虐待をうける女性・男性・子ども 6.精神的疾患、発達障害および他の障害を有する人 7.安全でないスポーツ、余暇活動に参加している人 8.ホームレス 9.自然災害において外傷のハイリスクにある人 10.特定の道路や交差点、水害被害想定地などハイリスクの環境の近くで生活したり働いたりしている人 11.宗教、民族および性的なし好等によりハイリスクにある人 鹿児島市では、次の理由からハイリスクグループを設定し、予防活動を行っています。 ①自殺リスクの高い 50・60 歳代の人		記述は十分か？ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「いいえ」の場合、 不十分な点は何か：						
<table border="1"> <tr> <td>設定理由</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・一年間で 100 人前後の人が自殺で死亡している実態がある。 ・特に 50 歳代・60 歳代が多い。 </td> </tr> <tr> <td>主な取り組み</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防の普及啓発(広報・周知やメンタルヘルス講演会等の実施) ・支援者への支援(ゲートキーパー養成講座の開催) ・相談しやすい場の設定 ・相談窓口の周知 </td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島いのちの電話協会、県医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察、鹿児島市 等 </td> </tr> </table>	設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間で 100 人前後の人が自殺で死亡している実態がある。 ・特に 50 歳代・60 歳代が多い。 	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防の普及啓発(広報・周知やメンタルヘルス講演会等の実施) ・支援者への支援(ゲートキーパー養成講座の開催) ・相談しやすい場の設定 ・相談窓口の周知 	実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島いのちの電話協会、県医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察、鹿児島市 等 		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間で 100 人前後の人が自殺で死亡している実態がある。 ・特に 50 歳代・60 歳代が多い。 							
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防の普及啓発(広報・周知やメンタルヘルス講演会等の実施) ・支援者への支援(ゲートキーパー養成講座の開催) ・相談しやすい場の設定 ・相談窓口の周知 							
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島いのちの電話協会、県医師会、県弁護士会、県司法書士会、鹿児島県警察、鹿児島市 等 							
<table border="1"> <tr> <td>設定理由</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の相談は年間 200 件以上あり、児童虐待の実態が依然としてある。 ・被虐待者のうち、就学前児童が約 56%である。 </td> </tr> <tr> <td>主な取り組み</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 ・児童虐待予防の学習会 </td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネ </td> </tr> </table>	設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の相談は年間 200 件以上あり、児童虐待の実態が依然としてある。 ・被虐待者のうち、就学前児童が約 56%である。 	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 ・児童虐待予防の学習会 	実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネ 		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の相談は年間 200 件以上あり、児童虐待の実態が依然としてある。 ・被虐待者のうち、就学前児童が約 56%である。 							
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 ・児童虐待予防の学習会 							
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・吉田南幼稚園、興国保育園、大龍子育てサロン、地域子育てネ 							

	ット Early Years Center、鹿児島子どもの虐待問題研究会、鹿児島市 など	
③転倒によりけがをしやすい高齢者		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・不慮の要因による高齢者の死亡原因は転倒・転落が多い。 ・一般負傷による救急搬送も転倒・転落が圧倒的に多い。 	
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防のための料理教室、講演会、転倒予防教室等の実施 ・住環境の改善 	
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・皇徳寺台東町内会、市健康づくり推進員協議会、市食生活改善推進員連絡協議会、鹿児島市 など 	
④虐待（DV：ドメスティック・バイオレンス）を受ける女性		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・男性に比べて女性の方がDV被害に遭う割合が高く、女性のDV被害者からの相談件数は増加傾向にある。 ・誰にも（どこにも）相談しない人が多く、DVへの理解度を高め、相談先情報の周知を図る必要がある。 	
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・DV防止のための啓発講座や研修会等の実施 ・相談員の資質向上（DV被害者支援啓発講座等の開催） 	
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・県弁護士会、市医師会、県臨床心理士会、ピア☆ぴあ☆かごしま（デートDVの予防活動を行う学生ボランティア団体）、鹿児島県警察、鹿児島県、鹿児島市 など 	
⑤夜間・歩行中の高齢者		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故死者は高齢者の割合が高く、そのうち歩行中の死者が約7割を占める。 ・交通事故死傷者は夜間が約4割を占め、なかでも高齢者の割合が高い。 	
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・参加・体験型の交通安全教室等の開催 ・高齢者の世帯訪問による交通安全教育 ・夜光反射材の着用啓発 	
実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・吉野校区安心安全ネットワーク会議、鹿児島県警察、県交通安全協会、鹿児島市 など 	
⑥ハイリスク環境の近くで生活する人		
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 ・マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 ・大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 ・島内には約4,500人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。 	
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の避難状況の把握（住民一覧表の作成） 	

<table border="1"> <tr> <td>組み</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者の避難体制の確立 避難訓練の充実強化 </td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td>・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など</td> </tr> </table>	組み	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者の避難体制の確立 避難訓練の充実強化 	実施者	・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など							
組み	<ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者の避難体制の確立 避難訓練の充実強化 										
実施者	・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など										
<p>E.2 ハイリスク環境の事例を挙げよ</p> <p>1.どのようにハイリスク環境を設定しているか述べよ</p> <p>2.優先的集団や環境について述べよ</p> <p>3.それらに対し、コミュニティでは特定のプログラムがあるか</p> <p>4.取り組みのタイムテーブルについて述べよ</p> <p>5.それらのグループは、それらの活動の予防的側面にかかわっているか</p> <p>①火山活動による災害が予測される地域</p> <table border="1"> <tr> <td>設定理由</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 島内には約4,500人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。 </td> </tr> <tr> <td>主な取り組み</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 住民の避難状況の把握 (住民一覧表の作成：2014.4～、年2回更新) 避難行動要支援者の避難体制の確立 (2014.9～、年4回程度協議・検討) 避難訓練の充実強化 (2014.9～、年4回程度協議・検討) (避難訓練：従来から、毎年1月実施) </td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td>・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など</td> </tr> <tr> <td>活動の進め方</td> <td>・年1回、地域住民をはじめ、関係団体、行政等が協働し、桜島火山爆発に特化した防災訓練を実施する。 など</td> </tr> <tr> <td>主体的な関わり</td> <td>・地域住民、町内会（自主防災組織）、消防団等が一体となり、避難訓練等を実施している。</td> </tr> </table>	設定理由	<ul style="list-style-type: none"> 桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 島内には約4,500人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。 	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 住民の避難状況の把握 (住民一覧表の作成：2014.4～、年2回更新) 避難行動要支援者の避難体制の確立 (2014.9～、年4回程度協議・検討) 避難訓練の充実強化 (2014.9～、年4回程度協議・検討) (避難訓練：従来から、毎年1月実施) 	実施者	・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など	活動の進め方	・年1回、地域住民をはじめ、関係団体、行政等が協働し、桜島火山爆発に特化した防災訓練を実施する。 など	主体的な関わり	・地域住民、町内会（自主防災組織）、消防団等が一体となり、避難訓練等を実施している。	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
設定理由	<ul style="list-style-type: none"> 桜島はこの1,000年間で4回の大噴火が繰り返されている。 マグマの蓄積は、大正噴火が起こる前の9割に達している。 大噴火が起これば、大量の噴石・降灰・火砕流や溶岩流などにより甚大な被害が発生するほか、噴火に伴う地震や津波、降灰の堆積に起因する土砂災害など複合的な災害に派生する恐れがある。 島内には約4,500人が居住しており、訪れる観光客も多いが、1本しかない外周道路が大噴火により寸断されれば孤立する恐れがある。 										
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 住民の避難状況の把握 (住民一覧表の作成：2014.4～、年2回更新) 避難行動要支援者の避難体制の確立 (2014.9～、年4回程度協議・検討) 避難訓練の充実強化 (2014.9～、年4回程度協議・検討) (避難訓練：従来から、毎年1月実施) 										
実施者	・町内会、市消防団、民生委員、鹿児島市 など										
活動の進め方	・年1回、地域住民をはじめ、関係団体、行政等が協働し、桜島火山爆発に特化した防災訓練を実施する。 など										
主体的な関わり	・地域住民、町内会（自主防災組織）、消防団等が一体となり、避難訓練等を実施している。										
<p>セクション F【指標 4】</p>											
<p>F.1 それぞれの年齢層、環境に対して行われた根拠に基づいた方策（戦略）/プログラムについて述べよ</p> <p>鹿児島市では、地域診断から重点的に取り組む7分野を決定し、根拠に基づいた次のようなプログラムを実施しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>										

<p>①子どもの安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内での事故・けがに関する情報の発信（及び講演会） ・児童への安全教育 ・職員による室内、園庭等の安全点検 ・体力向上プログラム ・子育てに悩みがある保護者の相談及び子育ての体験談の情報発信 ・児童虐待予防の学習会 <p>②高齢者の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防のための料理教室・講習会の実施 ・転倒予防教室等の実施 ・住環境の改善 ・認知症に関する意識啓発 ・民生委員・認知症見守りメイトによる見守り活動 <p>③交通安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シートベルト着用の啓発活動（全席シートベルトの着用） ・高齢運転者、企業等への交通安全講習等 ・歩行中の高齢者等への参加・体験型の交通安全教室等 ・高齢者の世帯訪問による交通安全教育 ・夜光反射材の着用啓発 ・交通安全マップの作成 <p>④学校の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内パトロール、危険箇所マップづくり、「危険」などの表示、ポスターの掲示、集会活動における呼びかけ、部活動時のけが防止活動による児童生徒の主体的な活動 <p>⑤DV 防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DV防止のための情報提供及び啓発 ・若者による若者のための暴力未然防止活動 ・相談員の資質向上 <p>⑥自殺予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防の普及啓発 ・支援者への支援 ・相談しやすい場の設定 ・相談窓口の周知 <p>⑦防災・災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の避難状況の把握 ・避難行動要支援者の避難体制確立 ・避難訓練の充実強化 <p>（別添説明書 P42～108 参照）</p>	
<p>F.2 根拠に基づいた方策（戦略）を企画・実践するにあたって支援センター、認証センター及び他の学術的あるいは知識を有する組織との連絡体制を持ってい</p>	<p>記述は十分か？ □ はい</p>

<p>るか。それはどの組織か？どのような範囲においてか？</p> <p>注) 当フォームの最後に根拠に基づいた介入に関する WHO のリンクを掲載している。</p> <p>支援センターである日本セーフコミュニティ推進機構から鹿児島市のセーフコミュニティの取り組み全般への支援を受けているほか、セーフコミュニティ推進協議会、外傷サーベイランス委員会の委員として参画いただいています。</p> <p>学術的組織としては、市医師会や志學館大学、鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島県弁護士会などがセーフコミュニティ推進協議会等の委員として参画いただいています。</p>	<p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>セクション G 【指標 5】</p>	
<p>G.1 傷害予防の方策を決定するにあたって用いるデータは何か？例えば、外傷記録は病院、保健センター、歯科医院、学校、高齢者介護組織、そして警察等で記録されている。家庭調査も外傷やリスクのある環境・状況のデータ収集に活用できる。どのような方法が用いられているか？</p> <p>日本では、医療機関等からのデータの入手は非常に困難なため、次のような外傷に関するデータを活用しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国レベル（厚生労働省、内閣府等）から入手：人口動態統計、自殺統計、日本スポーツ振興センター災害共済給付データ など ・県レベル（県警察等）から入手：警察統計 など ・市レベル（市消防局等）で入手：救急搬送データ など <p>このほか、鹿児島市では、既存データでカバーできないヒヤリハットや安心安全に関する意識などを把握するため、市民を対象としたアンケート調査を実施しています。</p> <p>また、市保健所を有していることから、外傷に関するデータは、市保健所から随時入手することが可能です。（中核都市以上の自治体が独自に保健所を有することができる）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>G.2 安全向上・傷害予防を推進するため、どのようにデータが提示されているか述べてよ</p> <p>各種データは、所管する機関や関係団体から提供してもらっています。</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口動態統計：市の情報を基に、厚生労働省が集積したデータ（毎年） ・救急搬送データ：市消防局が集積したデータ（毎年） <p>※ 2014 年 4 月から救急搬送データの事故種別を詳細に細分化するとともに、発生場所やけがの分類、部位などを新たに収集するシステムを構築しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察統計：県警察が集積したデータ（毎年） ・事故やけがに関するアンケート調査：市が実施したアンケート調査結果（毎年、ただし、2015 年度以降は、2～3 年ごとに実施） 	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・意識・行動調査（市立小中学生対象）：市が実施したアンケート調査結果（毎年） ・男女共同参画に関する市民意識調査：市が実施したアンケート調査結果（5年に1回。次回、2015年度実施） ・内閣府自殺統計原票データ：市の情報を基に、内閣府が集積したデータ（毎年）（別添報告書 P110～111 参照） 	
<p>G.3 どのように傷害の原因、リスク、ハイリスクの環境に関して記録し、その知識を活用するかを述べよ。どのように継続的な進捗を記録するか？</p> <p>上記に示したような各種データについては、外傷サーベイランス委員会が継続的に活用可能なデータの収集・分析を行い、分析結果を分野別対策委員会等にフィードバックします。</p> <p>分野別対策委員会では、そのデータを基に、さらに具体的な課題の設定や取り組みの企画を行うとともに、取り組みの実践後の効果を測定する際に活用します。</p> <p>また、各対策委員会においても、より具体的な課題の把握や取り組みの成果を確認するためにデータを収集しています。</p> <p>それらは、課題の確認やプログラムの評価に活用されます。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
セクション H【指標 6】	
<p>H.1 プログラムからの傾向や結果を追跡するため、どのように傷害データを分析するか。何がうまく機能していて、よい結果をもたらしているか？何を継続しようとして計画しているか？何を変更しなくてはならないか？</p> <p>日本では、総合的な外傷サーベイランスを管理する仕組みがない。そのため、鹿児島市では、G 2（P17～18 参照）で示した既存の統計データ等を収集し、外傷の発生に関する情報を抜き出して活用しています。</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口動態統計（交通事故、転倒、自殺など） ○救急搬送データ（交通事故、加害、自殺など） ○警察統計（交通事故、加害） <p>加えて、既存のデータ収集の仕組みでは得られないヒヤリハットなどの情報については、次のようなアンケート調査を実施しています。</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故やけがに関するアンケート調査：市が実施したアンケート調査結果（毎年。ただし、2015年度以降は、2～3年ごとに実施） ・意識・行動調査（市立小中学生対象）：市が実施したアンケート調査結果（毎年） ・男女共同参画に関する市民意識調査：市が実施したアンケート調査結果（5年に1回。次回：2015年度実施） <p>これらのデータは、外傷サーベイランス委員会事務局で収集・分析し、専門的な知識を有する委員がその結果を検証し、各対策委員会等に情報提供しています。</p> <p>また、各分野でも、それぞれ必要な統計データ等を収集し、その統計データ等を外傷サーベイランス委員会で集約し、分野横断的な情報共有を図っています。</p>	<p>用いられた方法は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>この仕組みにより、集積したデータを活用することで多面的な分析が可能になりました。また、各種専門機関から継続的なデータ入手が可能になりました。</p> <p>中でも詳細な事故種別など新たに収集システムを構築した救急搬送データなどについては、あらゆる方面から分析し、予防活動に生かすことが可能になりました。</p> <p>今後の検討事項としては、医療機関から外傷データを収集するシステムがないことから、今後も収集の可能性を検討します。また、救急搬送データなどの既存データで把握できない負傷やヒヤリハットについては、アンケート調査を実施することで対応します。</p>	
<p>H.2 プログラム評価の結果はどのように活用されているか述べよ</p> <p>分野別対策委員会は、自分たちが進めている取り組みについてそれぞれ設定した短期、中期、長期の成果指標に基づき評価します。加えて、外傷サーベイランス委員会がサーベイランスによって得られたデータを基にそれぞれの取り組みを評価し、その取り組みの改善案等を提示します。</p> <p>これらを取りまとめ、セーフコミュニティ活動全体の評価については、セーフコミュニティ推進協議会で協議します。</p> <p>さらに、日本セーフコミュニティ推進機構に評価結果を報告し、外部評価を受けるとともに、セーフコミュニティ推進協議会では、今後の活動の方向性を決定する基礎データとして活用しています。</p> <p>(別添説明書 P114～133 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>H.3 プログラムの結果による傷害パターン、傷害リスクに対する姿勢・行動・知識における変化を述べよ</p> <p>セーフコミュニティ活動を始めてから、例えば次の変化がありました。</p> <p>○組織体制の充実</p> <p>交通安全分野のモデル地区である「吉野小校区」の地域の安全確保のための活動を行う「地域安心安全ネットワーク会議」に幼稚園や長寿クラブなど 12 団体が新たに加入し、地域の組織力が向上しました。</p> <p>○ネットワークの充実</p> <p>鹿児島県警察本部に「セーフコミュニティ支援推進委員会」が設置されたことで、鹿児島市に特化した統計データの提供体制が充実し、緻密なデータ分析が可能になりました。</p> <p>○学校内のけが防止活動</p> <p>小中学生のけがは学校で最も多く発生しており、けがの原因の 1 つとして、児童生徒の「意識」と「行動」のずれが影響していると考えられることから、「校内パトロール」を実施し、安全に気をつけた行動を呼びかけるなどの児童生徒の主体的な活動を実施しています。</p> <p>けがの発生率の低い学校の実践例を参考に、取組内容を周知した結果、学校の課題に応じて新たな取組内容を実施する学校が増えたほか、児童生徒の「意識」と「行動」</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>のずれが小さくなり、安全に気をつけて、行動しようとする児童生徒が増えてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組内容に取り組む学校〔対策例：校内パトロール〕 周知前：小学校 54%、中学校 38% 周知後：小学校 59%、中学校 49% ・児童生徒の「意識」と「行動」の差 『遊びや運動をする際、ルールやきまりを守ること』 2013 年度：小学校 25%、中学校 20% 2014 年度：小学校 12%、中学校 12% <p>○DV（ドメスティック・バイオレンス）防止のための情報提供及び啓発 DVは若者の間でも起きており、予防学習経験が少ないことから、学校等にデートDV講演会の実施を積極的に働きかけ、予防学習経験を学ぶ機会を増やすことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デートDV講演会の実施校及び参加者数 2012 年度 9 校、2,862 人 2013 年度 12 校、3,280 人 2014 年度 12 校、5,057 人 <p>○自殺の相談窓口の周知 50～69 歳の自殺者数が多いことから、50～69 歳とその周囲の人が手に取ってもらえるような相談窓口案内カードの記載内容の充実（2014 年度：3 種類作成など）や設置場所を増やすなど、関係機関と連携して相談窓口の周知を図り、相談場所の認識度が高くなっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談場所の認識度（50～69 歳） 2013 年度 34.1% 2014 年度 39.7% <p>○住民の避難状況の把握 防災・災害対策分野のモデル町内会（高免町町内会）が住民の安否確認の基礎資料となる住民一覧表を独自で作成し、行政・消防・警察と情報共有を図ることで、個人情報の問題をクリアにすることができました。 さらに、火山災害に限らず、風水害や震災など他の災害においても活用が可能になりました。</p>	
<p>セクション I 【指標 7】</p>	
<p>I.1 どのように国内・国外の SC ネットワークに参加し、連携しているかを述べよ</p> <p>鹿児島市は、国内外で行われた会議等に積極的に参加しています。特に国内においては、認証自治体との情報交換はもとより、セーフコミュニティ推進自治体に参加する日本セーフコミュニティ推進機構主催の「セーフコミュニティ研修会・定例会議」に参加し、他自治体との連携・情報共有を図っています。 また、国内のセーフコミュニティに取り組む地方行政で構成される「全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク」に参加し、さらなる連携・情報共有を図っています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>I.2 認証式典は、何等かの国際会議、その他国際的なセミナーやフォーラム、国内の交流と併せて行う予定か</p> <p>アジア地域のセーフコミュニティの有識者を招いての講演会を開催し、その中で国内の認証自治体及び認証に向けて取り組んでいる自治体と共同でセーフコミュニティの取り組みを紹介するポスター展示などを実施する予定としています。</p>	
<p>I.3 どの認証コミュニティを招待する予定か</p> <p>国内の認証自治体及び認証に向けて取り組んでいる自治体（2015年7月現在15自治体）を招待する予定としています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>I.4 どの海外・国内の会議に参加してきたか</p> <p>[海外] (合計3回)</p> <p>2012.6 韓国済州島日韓合同ワークショップ 参加</p> <p>2012.11 第6回アジア地域セーフコミュニティ会議 出席 (東京都豊島区開催)</p> <p>2014.5 第7回アジア地域セーフコミュニティ会議 ポスター発表 (韓国釜山市開催)</p> <p>[国内] (視察12回、認証式7回、研修会及び会議8回)</p> <p>2010.10 青森県十和田市 視察 京都府亀岡市 視察</p> <p>2010.11 神奈川県厚木市認証式典 参加</p> <p>2011.10 神奈川県厚木市 視察</p> <p>2012.2 東京都豊島区現地審査 視察</p> <p>2012.5 長野県小諸市現地審査 視察 長野県箕輪町認証式典 参加</p> <p>2012.10 福岡県久留米市事前審査 視察 京都府亀岡市再認証現地審査 視察</p> <p>2012.11 JISC セーフコミュニティ勉強会 参加 東京都豊島区認証式典 参加</p> <p>2013.1 神奈川県横浜市栄区現地審査 視察</p> <p>2013.2 京都府亀岡市再認証式典 参加 第1回日本セーフコミュニティ定例会議 参加</p> <p>2013.7 JISC セーフコミュニティ勉強会 参加</p> <p>2013.8 大阪府松原市現地審査 視察 福岡県久留米市現地審査 視察</p> <p>2013.11 大阪府松原市認証式典 参加</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>2013.12</p> <p>2014.5</p> <p>2014.7</p> <p>2015.2</p> <p>2015.7</p> <p>※JISC：日本セーフコミュニティ推進機構 (別添報告書 P134～136 参照)</p>	<p>全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議 参加</p> <p>福岡県久留米市認証式典 参加</p> <p>第2回日本セーフコミュニティ定例会議 参加</p> <p>滋賀県甲賀市事前審査 視察</p> <p>JISC セーフコミュニティ勉強会 参加</p> <p>埼玉県北本市認証式典 参加</p> <p>第3回日本セーフコミュニティ定例会議 参加</p> <p>埼玉県秩父市現地審査 視察</p> <p>JISC セーフコミュニティ勉強会 参加</p>	
<p>I.5 どの地域の SC ネットワークに加わる予定か（加わりたいか）？（アジア、ヨーロッパ、環太平洋、アフリカ、ラテンアメリカの地域ネットワークがある）</p> <p>アジア地域SCネットワークに加わる予定としています。</p>		<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>